



ごあいさつ

京都における日本画は「京都画壇」として数多くの日本画家を輩出し、また日本画の世界で育った人材は京都の美術・工芸・伝統産業を支えてきました。私たちは創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都文化の発展に寄与することを目指しています。

「京都懇談会」の提言を受け、若手日本画家の活動を奨励することを目的として2008年度に創設した「京都 日本画新展」。2013年度からの「続『京都 日本画新展』」と合わせて、17年以上にわたり作品の発表の場を提供してまいりました。現在、同展出品を経て、多くの作家が各方面で活躍しています。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展を目指し、「京都 日本画新展」を開催いたします。

本展では、大賞・優秀賞受賞作をはじめ、推薦委員から推薦を受けた20～40歳の計30作家の秀作と、推薦委員の日本画家の新作を合わせて展覧いたします。

今後も「京都 日本画新展」が将来有望な若い作家たちにとって研鑽の場となり、また多様な展開を見せる現代日本画の新しい試みの一つとして、京都画壇の一助となることを願っています。

2026年2月

主催者

## Greetings

The Japanese arts through “Kyoto Art World” have groomed many artists that have supported the arts and crafts, as well as the traditional artistry of Kyoto. Our goal is to contribute to the development of Kyoto culture by encouraging the next generation of creative youthful artists.

Based on the proposal of the Kyoto Advisory Panel, “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” was established in 2008 with the goal of encouraging the activities of younger generation of Japanese artists. Together with the sequel of “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” from 2013, we have provided an exhibition to showcase artwork for over 17 years. Currently, many artists are actively involved in various fields after participating in our exhibitions. We’d like to continue our exhibition together with the aspiring new generation of artists that is unique to Kyoto.

In our exhibition, together with the Grand Prize and Excellence Award Winning Arts, we will exhibit the excellent artwork from a total of 30 artists in the age ranges of 20s to 40s, as well as the new Japanese artwork recommended by the panel.

We hope that our “Kyoto Art World” will continue to be the educational venue for potential young artists and that it will be the beacon of displaying the new attempts and the various development of contemporary Japanese artistry.

February 2026

The Organizer

## 「京都 日本画新展」について

「京都 日本画新展」は、日本画を志す若手作家の創作活動の奨励・支援を目的として2008年度に創設されました。以来、若手日本画家たちの自由な表現の場として、また同世代作家たちとの研さんの場として毎年本展を開催してきました。

2013年度からは、「統『京都 日本画新展』」、そして、2018年度からは京都府、京都市、京都商工会議所が共催に加わり、京都全体で取り組む日本画の展覧会として継承しています。

本展への出品は、京都、滋賀、奈良、大阪の大学で日本画の指導にあたっている先生方に推薦委員を委嘱し、より幅広い視点で、より多様な若手作家を毎年、推薦いただいています。また、受賞作品の選考にあたっては、日本画家をはじめとしたものづくりに携わる作家の方々に選考委員を務めていただきました。

出品の条件は、京都を中心に活動する、あるいは京都に縁のある、概ね20～40歳代の若手作家です。推薦委員により候補者を選定し、出品依頼を行います。

今年度は、30人の出品者に新作を制作していただきました。2025年11月5日に選考会を実施し、大賞1点、優秀賞2点、奨励賞(京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞)3点を選出しました。

本展では、受賞作品を含む30作品を展示。あわせて推薦委員6人の作品も展示します。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、「京都 日本画新展」を展開していきます。

---

## 京都 日本画新展2026

会期：2026年2月6日(金)～2月15日(日)

会場：美術館「えき」KYOTO

主催：西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞

共催：京都府、京都市、京都商工会議所

後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、

KBS京都、エフエム京都

### [推薦委員]

石股 昭 (奈良芸術短期大学教授)

雲丹亀利彦 (京都精華大学教授)

大沼 憲昭 (嵯峨美術大学名誉教授)

川嶋 渉 (京都市立芸術大学教授)

西久松吉雄 (成安造形大学名誉教授)

村居 正之 (大阪芸術大学教授)

### [選考委員]

内田あぐり (日本画家、武蔵野美術大学名誉教授)

大野 俊明 (日本画家、成安造形大学名誉教授)

澤田 瞳子 (小説家、同志社大学客員教授)

下出祐太郎 (蒔絵師、京都産業大学名誉教授)

村上 良子 (紬織作家、重要無形文化財保持者)

(いずれも五十音順・敬称略)



图版

## 中村 勇太

なかむら ゆうた／NAKAMURA Yuta



1992 静岡県浜松市に生まれる | 2014 全国美術大学奨学日本画展(三隅中央会館／島根) | 2016 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業 | 2021 KENZAN-見参- 新生堂賞(東京芸術劇場) | 2024 日本画の極みを求めて(平野美術館／静岡) | 2025 OSAKA INTERNATIONAL ART(大阪城ホール)



大賞 一笑図 ISSHOZU

◎本展出品作について作家より

愛犬の成長を描き留めた写生、そして西陣で学んだ古典文様・図案の謂れをもとに竹文様を中心とした着物を重ね、一笑図(竹+犬=笑、と見立て古来縁起の良い取り合わせとして描かれてきた画題)としました。



優秀賞 邂逅 Encounter

## 波賀野 文子

はかの ふみこ / HAGANO Fumiko



1991 神奈川県横浜市に生まれる | 2019 京都花鳥館賞 優秀賞(京都花鳥館) | 2021 京都精華大学大学院博士後期課程芸術研究科芸術領域修了 | 2022 兵庫県展 絵画部門 兵庫県芸術文化協会賞(原田の森ギャラリー / 兵庫 24年神戸新聞社賞) | 2025 美作三湯芸術温度 出展(湯原 / 岡山)

現在 京都日本画家協会会員、創画会会友

◎本展出品作について作家より

夜の川、オオサンショウウオたちが餌を求めて活発に動き出す。それぞれが縄張りを持ち、単独行動をする彼らが邂逅したとき、何が起こるのだろうか。

自然界で生きることの厳しさと美しさ、一瞬の緊張感の中に宿るオオサンショウウオの悠然とした佇まいの表現を試みた。

## 堀 花圭

ほり はるか／HORI Haruka



1998 京都市に生まれる | 2020 上野の森美術館大賞展 入選(上野の森美術館／東京 同22、23、25年大賞) | 2022 FACE展 審査員特別賞(SOMPO美術館／東京) | 2023 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画修了 | 2024 Kyoto Art for Tomorrow 京都府新鋭選抜展 日本経済新聞社京都支社賞(京都文化博物館 同25年入選)

### ◎本展出品作について作家より

日常の記憶をモチーフに、心や体で感じた「感覚そのもの」を視覚化し、鑑賞者の内面にまで作用するような絵画空間の可能性を探究しています。今回の作品は、カナダのナイアガラフォールズでの、壁が迫りくるように流れ落ちる大迫力の滝と水しぶき、虹といった大自然が織りなす風景がきっかけとなりました。その出会いの中で湧き上がってきた感覚や気配、そしてその場の空気が持つ解放感のようなものを、日本画材の色彩や質感、画面構成などの要素を組み合わせて画面上に表現してみました。



優秀賞 One day -waterfalls-





奨励賞・京都府知事賞 生々瑞芽 Vigorous Sprout

## 吉原 拓弥

よしはら たくや／YOSHIHARA Takuya



1992 大阪府八尾市に生まれる | 2017 京都造形芸術大学大学院芸術専攻修士課程修了 | 2020 美術新人賞「デビュー」準大賞(ギャラリー和田／東京) | 2023 個展(大丸京都店 ESPACE KYOTO) | 2024 Seed山種美術館日本画アワード 入選(山種美術館／東京) | 2025 個展(あべのハルカス近鉄本店／大阪)

現在 日本美術院院友、京都芸術大学日本画コース非常勤講師

◎本展出品作について作家より

この世のすべては絶えず変化する“諸行無常”である。永遠を手元に置いておくことなどできない。だからこそ、時代がどのように流れようと、松が力強く新芽を伸ばすように、あるいは鷹の目の鋭い眼光のように、確固たる意志を抱き続けたいと思うのだ。



奨励賞・京都市長賞 影見 KAGEMI

## 植田 吏

うえだ つかさ / UEDA Tsukasa



2024 三越伊勢丹・千住博日本画大賞展 入選  
(日本橋三越本店／東京)、アートオリンピア 6位(起雲閣／静岡)、トリエンナーレ豊橋  
星野眞吾賞展 入選(豊橋市美術博物館／愛知)  
| 2025 成安造形大学卒業制作展 美術領域優秀  
賞(京都市京セラ美術館)、成安造形大学芸術学  
部芸術学科日本画コース卒業

現在 成安造形大学美術領域日本画コース研究  
生在籍

### ◎本展出品作について作家より

私は、人やものなどの他者と関わる時、その  
関わる対象と自分の存在が重なったり、離れた  
りすることで、境界が曖昧になる瞬間がある。  
そのような体験を基に、私は、私と他者との境  
界が揺れ動く現象を、作品で表現している。



奨励賞・京都商工会議所会頭賞 相 Aspect

## 土淵 麻衣

どぶち まい/DOBUCHI Mai



1991 京都府綾部市に生まれる | 2016 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了 | 2018 神戸アートマルシェ(神戸メリケンパークオリエンタルホテル 同23、25年) | 2022 ART@DAIMARU(大丸京都店 同23年) | 2023 Study: 大阪関西国際芸術祭/アートフェア(グランフロント大阪)、大本山大覚寺紙本著色稚児大師像奉納(京都)

◎本展出品作について作家より

土の上にたくさんの植物が寄せ集まって、空気と水を吸い、互いに作用し、また時にせめぎ合いながらひとところに生きている。

その小さな空間に、世界のあり様を見ているような気がしている。





思案の部屋 Room of Thought

## 岩井 晴香

いわい はるか / IWAI Haruka



1986 滋賀県守山市に生まれる | 2010 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了 | 2012 京都 日本画新展 優秀賞(美術館「えき」KYOTO) | 2019 創画展 創画会賞 | 2022 郷さくら美術館桜花賞展 奨励賞(郷さくら美術館／東京) | 2024 Seed山種美術館日本画アワード 入選(山種美術館／東京)

◎本展出品作について作家より

正直日々陰鬱である。

季節の景色に目を奪われ感動しても、日常の何気ないゆとりを楽しんでも、差し迫る何かが不安にさせる。

意味や意義が希薄になり、浅い思考の層でさらに曖昧になる。





野駆 Picnic

## 宇野 加奈子

うの かなこ / UNO Kanako



1997 大分市に生まれる | 2020 大阪芸術大学  
芸術学部美術学科日本画コース卒業 | 2021 日  
展 入選(同22~24年)、関西美術大学選抜展(大  
阪高島屋 同22、23年) | 2022 日春展 新人賞(23  
年入選) | 2023 京都日本画家協会創立80周年記  
念展(京都文化博物館)

現在 日春会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

どこかに行く。30分歩く、車で2時間走る。私  
は散歩もドライブも好きだ。でも、どこに行っ  
ても、居場所は変わらない。動いているだけで、  
ずっと留まっているんじゃないかという錯覚に  
襲われる。遊具の馬達は前後に揺れて、公園か  
ら一歩も出ることはない。



余白の欠如 Days Without Breathing Room

## 奥野 久美子

おくの くみこ / OKUNO Kumiko



1999 兵庫県芦屋市に生まれる | 2024 京都芸術大学大学院美術工芸領域日本画分野修了、個展「奥野久美子展－優鬱－」(ギャラリー恵風／京都 同22年)、奨学生美術展(佐藤美術館／東京)、佐藤太清賞公募美術展 佐藤太清賞(福知山市厚生会館／京都他) | 2025 上野の森美術館大賞展 入選(上野の森美術館／東京)

### ◎本展出品作について作家より

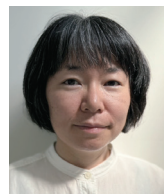
ヒエロニムス・ボスが《地獄》を、闇をうごめく異型たちでうめつくしたように、画家の表現をなぞらえることで、現代の不安感を表現している。現代では、かつては当たり前にあった四季折々の生活の営みを愛でる習慣は過去のものとなってしまった。そんな消えつつある食との関わりに焦点をあてたい。



まる MARU

## 小熊 香奈子

おぐま かなこ / OGUMA Kanako



1981 大阪府和泉市に生まれる | 2004 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科修士課程修了 | 2008 日春展 奨励賞 | 2021 日展 特選 | 2024 京都日本画新展 奨励賞・京都市長賞(美術館「えき」KYOTO)

現在 日展会友

◎本展出品作について作家より

秋の終わり、陽だまりで眠る猫。その丸い寝姿が印象的で猫の丸みを生かせるような構図を目指しました。

猫の丸い寝姿は惑星のようにも見えます。花々やお皿、おもちゃは猫の周りを回る衛星です。私にとっての猫のいる天体図。



## 上岡 奈苗

かみおか ななえ/KAMIOKA Nanae



1982 大阪府和泉市に生まれる | 2007 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了 | 2013 個展「NANA-E Garden」(Art space-MEISEI/京都 同16、19年) | 2018 個展「譜の彩」(銀座gallery R&T/東京) | 2022 個展「あふれる彩-Overflowing colors-」(大雅堂/京都)

### ◎本展出品作について作家より

卵より孵し、大切に育てた鶏と共に過ごす日々の中で、苛酷な畜産動物の存在をこれまで以上に身近に感じるようになりました。数多の命を頂きながら生きていることは知ってはいても、その命は当たり前で食事として消費され、やがてその尊さへの思いは日々の慌ただしさの中に埋もれてしまうのでしょうか。



珠の譜 The Score of Pearls



月へ傾倒 Longing for the Moon

## 川島 美樹

かわしま みき/KAWASHIMA Miki



1999 滋賀県東近江市に生まれる | 2024 石  
本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館／島  
根) | 2025 京都 日本画新展(美術館「えき」  
KYOTO)、郷さくら美術館桜花賞展(郷さくら  
美術館／東京)、嵯峨美術大学大学院芸術研究  
科造形分野修了、前田青邨記念大賞(中津川市  
ひと・まちテラス／岐阜)

◎本展出品作について作家より

ケイトウは、その見目の奇妙さがずっと心に残  
っていて、いつか描きたいと思っていた憧れの  
花でした。種から育てようとして失敗に終わっ  
てしまったこともあります。

ある日、手のひらほど大きく立派なケイトウが  
たくさん育てられているお庭を見かけました。  
冷え込みが厳しくなってきた秋の夜の帰り道で  
のことでした。憧れは募るばかりです。



ゆとり Leeway

## 北川 麗

きたがわ うらら / KITAGAWA Urara



2001 京都府城陽市に生まれる | 2023 上野の森美術館大賞展 一次賞候補(上野の森美術館／東京 25年入選) | 2024 嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画・古画領域卒業、石本正日本画大賞展 大賞(浜田市立石正美術館／島根) | 2025 個展「面影に立つ」(ギャラリー恵風／京都)

現在 嵯峨美術大学大学院芸術研究科造形分野  
在籍

### ◎本展出品作について作家より

空き地には、人の気配と時間の流れが残っている。誰かが通過し、草が伸び、たまに手入れが入る。何もないうでいて、そこには確かな呼吸がある。置き去りにされたようでいて、見守られてもいる。そんな余白のある場所が、生きる速度をゆるめてくれる。





心奥の息づき      Breath of the Inner Heart

## 虞 梦芝

グムシ/YU Mengzhi



1991 中国南京市に生まれる | 2024 春季創画展  
入選(同25年)、兵庫県日本画家連盟公募展 神戸新聞社賞(原田の森ギャラリー／兵庫) | 2025  
京都花鳥館賞 優秀賞(京都花鳥館)、京都精華  
大学大学院芸術研究科博士前期課程修了

◎本展出品作について作家より

夜がそっと水面に降り立ち、蓮の葉が淡い光を  
まとうて静かに佇む。揺らめく影は水面と溶け  
合い、水と夜との境が曖昧になる。その静けさ  
の中、心の奥に微かな息づきを感じる。時はゆる  
やかに流れ、すべてがひとつに溶け込むよう  
な安らぎが広がる。



spot

## 倉谷 優羽

くらたに ゆう／KURATANI Yu



2002 奈良県香芝市に生まれる | 2025 日春展  
入選、西宮市展 若手奨励賞(西宮市立市民ギャ  
ラリー／兵庫)、前田青邨記念大賞 入選(中津  
川市ひと・まちテラス／岐阜)

現在 大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程  
(前期)在籍

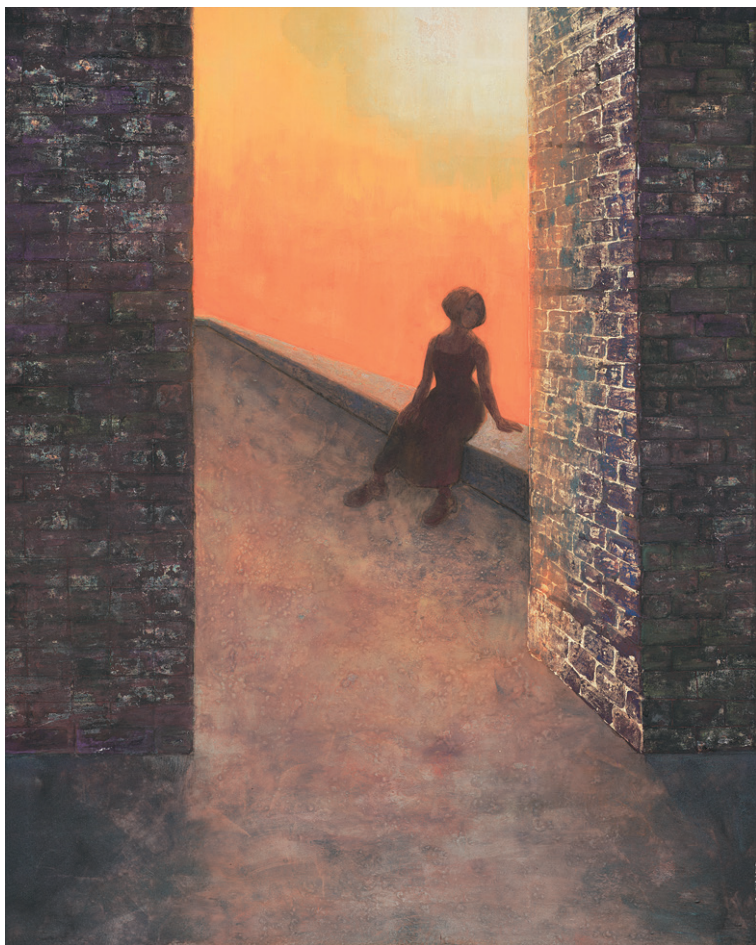
### ◎本展出品作について作家より

「spot」という英単語には特定の「場所」や「地  
点」という意味の他に「染み」や「斑点」とい  
う意味があります。

おそらく施工された時期が違うであろう3種類  
のコンクリートの壁面がありました。

何か意味ありげな独特な形をつくるコンクリー  
トたちに木漏れ日が揺れていました。





遺構の人 Twilight

## 小林 美野理

こばやし みのり / KOBAYASHI Minori



2002 三重県津市に生まれる | 2022 石本正日本画大賞展 準大賞第一席(浜田市立石正美術館／島根) | 2023 春季創画展 初入選(同24、25年)、創画展 初入選(同24、25年)

現在 奈良芸術短期大学研究生日本画コース在籍

◎本展出品作について作家より

夢にでてきた1シーンです。夕方、名張の住宅街のある丘に、不思議な廃墟街を見つけました。孤児たち以外ほとんど人がみられない中、門の向こうに黒いワンピースを着た女性が、ぽつんと座っている佇まいが、強く印象に残っています。



紡がれた時間 Spun Time

## 小山 大地

こやま だいち / KOYAMA Daichi



1985 三重県伊賀市に生まれる | 2008 創画展  
入選(同09~24年) | 2010 大阪芸術大学大学院  
芸術研究科博士課程(前期)修了 | 2011 春季創  
画展 入選(同12~25年)、京都 日本画新展(美  
術館「えき」KYOTO 同25年) | 2014 日本画  
初会(小大丸画廊/大阪、同15~24年)

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

### ◎本展出品作について作家より

欠片は長い年月をかけて、いずれ大きな塊となる。塊は流れに晒されて、そのうち断片となる。断片となったものもまた、いつか再び結集していく。粒状の絵具を用いて描くこともその一部なのかもしれない。デジタル的に断片化された事柄も集約される日が来るのだろうか。バラバラに断片化した記憶を、ひとつつながりになるように並び替え構成しました。人々の断片化された記憶をつなぎ止められうるか、というのがテーマです。いつかはひとつながりの文脈になると信じて、作品を描いています。悲しい記憶も、苦しい記憶も。



あしたのこと      About Tomorrow

## 坂口 鈴音

さかぐち すずね / SAKAGUCHI Suzune



2001 大阪府八尾市に生まれる | 2023 創画展  
初入選(同24、25年) | 2024 春季創画展 初入選  
(同25年)、奈良芸術短期大学専攻科卒業 | 2025  
京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)

◎本展出品作について作家より

想いを馳せる時、自分以外の物の輪郭がぼやけて静かになる瞬間があります。

時折感じることのできる、あの心地良い静寂の感覚を忘れないようにと、描きとめました。





Sound of Silver —一花— Sound of Silver -HITO HANA-

## 田口 涼一

たぐち りょういち / TAGUCHI Ryoichi



1981 大阪市に生まれる | 2003 創画展 初入選  
 | 2006 春季創画展 初入選 | 2011 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程修了 | 2012 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO 同19年、22年奨励賞・京都府知事賞、25年優秀賞)  
 | 2021 個展(ギャラリー恵風 / 京都 同23、25年) | 2023 個展(小杉画廊 / 神奈川)、新京都展(ギャラリーためなが京都店 同24年) | 2024 NOUVEL HORIZON JAPON(ギャラリーためながパリ店 / フランス)

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

「だれかが、なん百万もの星のどれかに咲いている、たった一輪の花がすぎだったら、その人は、そのたくさんの星をながめるだけで、しあわせになれるんだ。」(『星の王子さま』を読んで)かけがえのない時間や存在を大切に、日々を過ごせたらと思います。そのような想いを込めて、朝の気配と夜空を銀箔や焼箔で表現しました。



曲がり重なり Curved Overlap

## 竹村 花菜

たけむら かな / TAKEMURA Kana



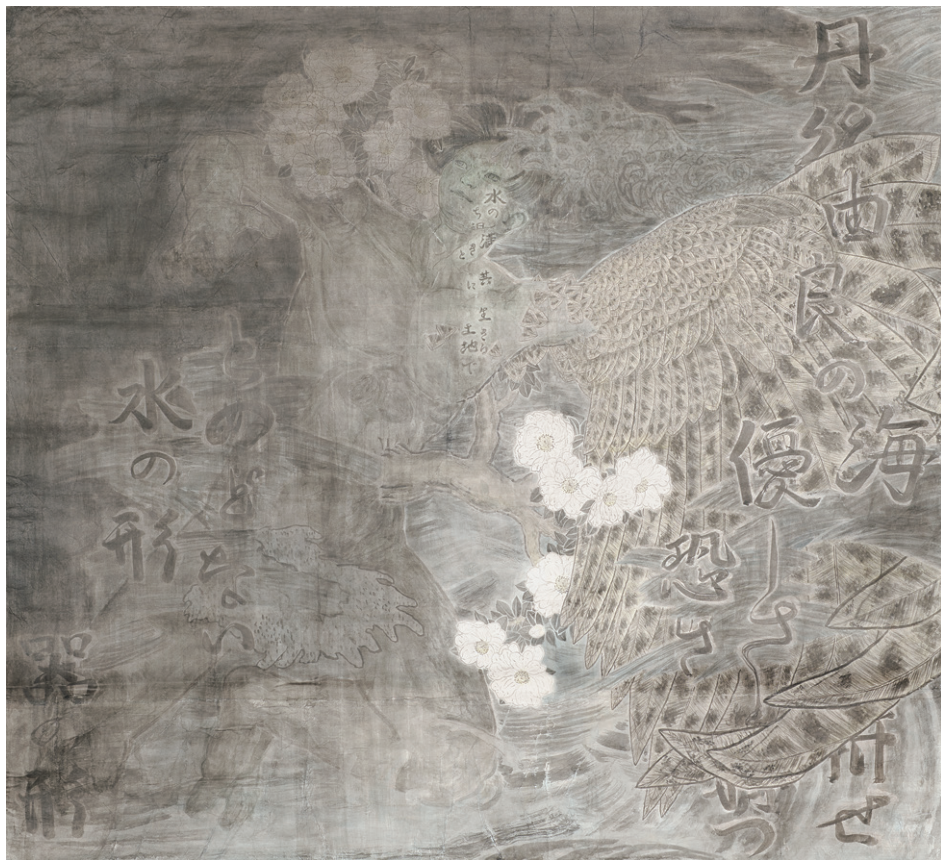
1996 京都府南丹市に生まれる | 2018 創画展  
入選(同19~24年) | 2021 筑波大学大学院人間  
総合科学研究科博士前期課程修了、平和堂財団  
芸術奨励賞 美術部門受賞 | 2022 京都 日本画  
新展(美術館「えき」KYOTO 同24年) | 2023  
京都花鳥館賞 最優秀賞(京都花鳥館)

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

それは人のようで、  
それは人生のようで、  
そのあとはどうなるんだろうと、  
そんなことを考えながら山吹が咲く庭にたたず  
む。





由良の海を廻る魂    Spirits Revolving the Sea of YURA

## 千坂 尚義

ちさか ひさよし / CHISAKA Hisayoshi



1994 京都府宮津市に生まれる | 2017 石本正  
日本画大賞展 大賞(浜田市立石正美術館/鳥  
根) | 2020 成安造形大学美術領域日本画コース  
卒業 | 2022 個展(同23、25年) | 2024 Big-i×  
Bunkamuraアートプロジェクト 上田パロン賞  
(Bunkamura Gallery 8//東京) | 2025 京都 日  
本画新展 奨励賞・京都商工会議所会頭賞(美術  
館「えき」KYOTO)

◎本展出品作について作家より

線にこだわりました。私が線で線が私で、とて  
も熱い。線は1次元、面は2次元、立体は3次  
元、時間が4次元。アナログ絵画における線は、  
筆が触れた時間と呼吸、線がある位置、線に伴  
う色面、全てを含んでおります。

さしずめ絵画というのは2次元に3次元を組み  
立てているだけではなく、3.5次元のようなも  
のです。呼吸とともに折り重ねた絵画空間、是  
非お味わい下さい。



帳と街の輪郭 TOBARI TO MACHI NO RINKAKU

## 富永 拓真

とみなが たくま / TOMINAGA Takuma



1999 大阪府豊能郡に生まれる | 2021 創画展  
入選(同24年) | 2022 石本正日本画大賞展 入選  
(浜田市立石正美術館 / 島根 23年奨励賞) | 2024  
京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程日  
本画領域修了 | 2025 THE LAST STROKE 出  
品(ミラノ)

◎本展出品作について作家より

バスを待つ間、ぼんやりと街を見ながら考え事  
をすることがよくある。今回の作品では、まと  
まらない考えと同じように、夜の帳がおりはじ  
めて曖昧になっていく街の心象風景を描いた。  
何でもない、記憶にも残らないような日常への  
感謝をこめて制作した。



## 中田 柚香

なかだ ゆうか／NAKADA Yuka



わたし Me

1999 京都市に生まれる | 2021 個展「Yuka」  
(Three Star Kyoto) | 2023 上野の森美術館大  
賞展 入選(上野の森美術館／東京)、石本正日  
本画大賞展 入選(浜田市立石正美術館／島根)  
| 2024 嵯峨美術大学大学院芸術研究科造形  
分野修了、個展「My costume room」(FROM  
KYOTO GALLERY)

◎本展出品作について作家より

外見から内面を判断される違和感や面白さを表  
そうと思い、容姿とその内面に潜む色々なキャ  
ラクターをテーマに自画像を描きました。

時に、容姿や“キャラ”に悩むことがあるかもしれ  
ませんが、「かわいい」の種類はたくさんあ  
るということを作品を通して伝えたいです。





skavla / 悲しめるもののためにみどりかがやく skavla / The Greenery Shines for Those Who Live.

## 西川 礼華

にしかわ あやか／NISHIKAWA Ayaka



1988 滋賀県米原市に生まれる | 2013 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了 | 2024 個展「霧と分身」(genzai／滋賀) | 2025 平和堂財団芸術奨励賞 美術部門受賞、二人展「生死生 IKISIIKI」(青岸寺／滋賀)

◎本展出品作について作家より

この世界には人のものとは異なる言語や時間感覚のようなものが存在していると感じます。

写生後、花を布に包んで土に埋葬し、布に残った痕跡を元に自然の写生と組み合わせて絵を描いています。

自然との触れ合いを通して目には見えないにかを可視化しようと試みています。

## 野一色 優美

のいしき ゆみ / NOISHIKI Yumi



1998 大阪市に生まれる | 2020 春季創画展 入選(同21、22、25年) | 2023 創画展 入選(同24年) | 2025 筑波大学大学院博士前期課程芸術学学位プログラム日本画領域修了、筑波大学修了制作展 芸術学学位プログラム優秀作品賞(茨城県つくば美術館)、平和堂財団芸術奨励賞 美術部門受賞



伽藍ノ燈 The Temple's Enlightenment

### ◎本展出品作について作家より

以前、京都国立博物館で萬福寺の韋駄天立像を見たとき、実際に目の前に舞い降りたかのような印象を受けました。韋駄天には、鬼に盗まれたお釈迦様の仏舎利を俊足で取り返し、仏教の伽藍の守護神となったという逸話があります。静かに燃えるその眼差しから、揺らぐ社会の中で力強く生き続ける決心を抱きました。



たまゆら TAMAYURA

## 服部 由空

はっとり ゆうく／HATTORI Yuku



1991 滋賀県栗東市に生まれる | 2016 京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻日本画修了 | 2018 個展「さとがすみ」(大雅堂／京都) | 2023 個展「さとうらら」(ジェイアール名古屋タカシマヤ／愛知) | 2024 滋賀県美術展覧会 特選・公益財団法人木下美術館賞(滋賀県立美術館)

現在 成安造形大学助教

◎本展出品作について作家より

早朝の空気・水・光・音・さまざまな生命の息遣いが響き合うような刹那的な間。

何気ない日常に潜んでいる「美」との出会いを大切に描きます。





白日夢 Daydream

## 原田 有希

はらだ ゆき / HARADA Yuki



1986 大阪府八尾市に生まれる | 2011 全関西美術展賞 第二席受賞(大阪市立美術館) | 2012 佐藤太清賞公募美術展 特選・福知山市長賞(福知山市厚生会館/京都他) | 2013 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了 | 2014 京都国際映画祭クリエイターズ・ファクトリーアート部門 優秀賞(元立誠小学校/京都) | 2017 個展「いとほし」(SYSTEMAギャラリー/大阪同19、20、23、24年、同22年田川市美術館/福岡)

現在 京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

白日夢とは空想や想像を膨らませ、夢のように体験し、幻想にふける事を言います。成長の過程で、心と身体、思考がそれぞれ違うところにあり翻弄され、苦しみや不安、葛藤などに強く悩まされます。

そんな時、自分の世界に深く入り込むことで、物事がうまくいく場合があります。周囲の声さえ届かないほどに。



今夜の舟は 音なく進む A Boat in the Night Drifts in Silence

## 福井 悠

ふくい はるか / FUKUI Haruka



1982 奈良県橿原市に生まれる | 2006 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業 | 2022 上野の森美術館大賞展 賞候補(上野の森美術館／東京) | 2023 郷さくら美術館桜花賞展(郷さくら美術館／東京) | 2024 個展「この風のなまえ」(ギャラリー恵風／京都)

◎本展出品作について作家より

ものごとの発する微かな振動やその関係を聴きとることができればいいと思う。  
息をひそめて観る、聴く、これなんだろう。その意識の器が飽和状態になった時、個の意識から離れ、自然の原理に沿って勝手に進む舟のように。



想 Think

## 古川 功晟

ふるかわ かつあき / FURUKAWA Katsuaki



1994 兵庫県赤穂市に生まれる | 2017 日春展  
初入選(22年奨励賞) | 2019 日展 初入選 | 2020  
大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程(前期)  
修了 | 2021 関西美術大学選抜展(大阪高島屋  
同22年)、しんわ美術展 銀賞(アルネ・津山/  
岡山)

現在 日春会会友、京都日本画家協会会員

### ◎本展出品作について作家より

動物園で出会った静かにたたずみ、何かに想いを馳せているようなラクダを描きました。

取材地は姫路市立動物園でよく行くのですが、鳴きもせず静かにどこかを見つめている姿がいつも印象的で、今回題材とさせていただきます。

そんな現場で感じたラクダの雰囲気を画面に少しでも表せるようにと願いながら制作致しました。





蒼の領域 Region of Nature

## 吉川 大介

よしかわ だいすけ / YOSHIKAWA Daisuke



1980 大阪府茨木市に生まれる | 2002 京都市立芸術大学美術学科日本画専攻卒業 | 2003 京展入選(京都市美術館 同04~06、09~12、14、15年、07、13年栖鳳賞) | 2006 創画展 初入選 | 2015 松伯美術館花鳥画展 入選(松伯美術館／奈良)

現在 創画会会友

◎本展出品作について作家より

人との関わりの中では愛されることもその逆もある「雑草」たちですが、ひと夏の限られた時間で自らの領域を広げてゆく懸命な姿に愛着を覚えます。

モチーフにしたのは主にヤブガラシ、ツワブキ、エノコログサ、ユウガオです。

身近な植物たちの生命力を感じていただければ幸いです。





推薦委員  
函版

## 石股 昭

いしまた あきら／ISHIMATA Akira



1957 京都市に生まれる | 1982 春季創画展 初入選(同86、88、89、92、93、95年、03年 春季展賞)、創画展 初入選(同97、05年、06年 創画会賞)、京都美術選抜展 京都府買上(同84年)

現在 奈良芸術短期大学教授、創画会会員



草の詩 Poetry of Grass



時を想う Think of Time

## 雲丹亀 利彦

うにがめ としひこ / UNIGAME Toshihiko



1966 兵庫県姫路市に生まれる | 1989 大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業 | 1998 創画展 創画会賞(同99~01年) | 2000 姫路市芸術文化賞芸術年度賞 | 2003 加西市文化連盟芸術文化功労賞 | 2004 兵庫県芸術奨励賞

現在 京都精華大学教授、創画会正会員





鱗鱗 Gathering Point

## 大沼 憲昭

おおぬま のりあき / ONUMA Noriaki



1954 石川県金沢市に生まれる | 1976 大谷大学文学部卒業、パンリアル美術協会展 春・秋季展(京都市美術館 同77~93年、93年退会) | 1981 山種美術館賞展 今日の日本画(山種美術館 / 東京 同87、89、91、98年) | 1990 京都新聞日本画賞展 優秀賞(大丸ミュージアム京都 91、92年大賞、93年招待)

現在 嵯峨美術大学名誉教授



現象 Phenomenon

## 川嶋 渉

かわしま わたる／KAWASHIMA Wataru



1966 京都市に生まれる | 1989 京都精華大学卒業 | 1996 日展 特選(同02年) | 2004 京都市芸術新人賞 | 2019 個展「粒であり波である」(大雅堂／京都) | 2023 日展会員賞、個展「粒の表情－現象－」(日本橋三越本店／東京) | 2025 京都美術文化賞

現在 京都市立芸術大学副学長、日展会員



輪廻 Cycle of Rebirth

## 西久松 吉雄

にしひさまつ よしお / NISHIHISAMATSU Yoshio



1952 京都市に生まれる | 1979 京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了 | 1995 山種美術館賞展 優秀賞(山種美術館／東京) | 2010 京都美術文化賞 | 2020 京都府文化賞功労賞 | 2023 京都市文化功労者

現在 成安造形大学名誉教授、浜田市立石正美術館館長、創画会副理事長





富士黎明 Dawn of Mt. Fuji

## 村居 正之

むらい まさゆき / MURAI Masayuki



1947 京都市に生まれる | 1968 青塔社入塾、池田遙邨・池田道夫に師事 | 1971 日展 初入選 (同75、90年特選、18年文部科学大臣賞、94、98、04、10、18、21、23、25年審査員) | 2020 日本芸術院賞・恩賜賞、日本芸術院会員就任

現在 大阪芸術大学美術学科教授学科長、金沢美術工芸大学客員教授、日展理事、日春会副理事長、日本芸術院会員



	氏名	作品名	素材・技法	サイズ(タテ×ヨコ)
大賞	中村 勇太	一笑園	和紙、岩絵具、水干絵具、墨、箔、金泥	162×162
優秀賞	波賀野 文子	邂逅	高知麻紙、岩絵具	161×161
優秀賞	堀 花圭	One day -waterfalls-	麻紙、岩絵具、銀箔	162×162
奨励賞・京都府知事賞	吉原 拓弥	生々瑞芽	綿布彩色、岩絵具、水干絵具、墨、金属箔、胡粉、雲母	163×162
奨励賞・京都市長賞	植田 吏	影見	ステンレス、和紙、墨	96×161
奨励賞・京都商工会議所会頭賞	土淵 麻衣	相	高知麻紙、岩絵具、水干絵具、箔、コンテ	161×160
	岩井 晴香	思案の部屋	紙本彩色、麻紙、岩絵具、水干絵具、膠、胡粉	130×162
	宇野 加奈子	野駆	パネル、キャンバス、岩絵具、水干絵具、銀箔、パステル	112×162
	奥野 久美子	余白の欠如	落水紙、絹、岩絵具、墨、顔料、膠	161×162
	小熊 香奈子	まる	麻紙、岩絵具、銀箔	162×162
	上岡 奈苗	珠の譜	紙本着彩、岩絵具	162×162
	川島 美樹	月へ傾倒	絹、墨、岩絵具、水干絵具	111×145
	北川 麗	ゆとり	高知麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉、パステル	162×162
	虞 夢芝	心奥の息づき	高知麻紙、岩絵具、水干絵具、箔	162×131
	倉谷 優羽	spot	綿布、岩絵具、水干絵具、墨、銀箔	161×129
	小林 美野理	遺構の人	麻紙、岩絵具、水干絵具、金箔	161×129
	小山 大地	紡がれた時間	木製パネル、綿布、岩絵具、顔料、膠	162×162
	坂口 鈴音	あしたのこと	麻紙、岩絵具、水干絵具	161×96
	田口 涼一	Sound of Silver -一花-	麻紙等、純金箔、純金泥、焼箔、耐変色性銀箔、銀泥	161×162
	竹村 花菜	曲がり重なり	麻紙、岩絵具、水干絵具	129×161
	千坂 尚義	由良の海を廻る魂	和紙、墨、日本画絵具	147×162
	富永 拓真	帳と街の輪郭	高知麻紙、岩絵具、水干絵具	160×128
	中田 柚香	わたし	綿布、岩絵具、水干絵具、胡粉、墨、金泥、箔、顔彩、透明水彩絵具、色鉛筆、ペン、ラメパウダー、ラメパーツ	163×163
	西川 礼華	skavla / 悲しめるもののためにみどりかがやく	紙本彩色、岩絵具	162×162
	野一色 優美	伽藍ノ燈	雲肌麻紙、岩絵具、墨、胡粉、準金泥	162×125
	服部 由空	たまゆら	近江雁皮紙、岩絵具、透明水彩絵具	163×163
	原田 有希	白日夢	雲肌麻紙、岩絵具、墨、箔	112×162
	福井 悠	今夜の舟は 音なく進む	岩絵具、水干絵具、白亜	131×162
	古川 功晟	想	紙本彩色、和紙	163×162
	吉川 大介	蒼の領域	麻紙、岩絵具、顔料	131×162
推薦委員				
	石股 昭	草の詩	麻紙、岩絵具	118×92
	雲丹亀 利彦	時を想う	雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、金箔	115×90
	大沼 憲昭	鱗鱗	麻紙、岩絵具、墨、胡粉、雲母、白金泥	90×116
	川嶋 涉	現象	丹後和紙、墨	92×62
	西久松 吉雄	輪廻	麻紙、岩絵具	144×96
	村居 正之	富士黎明	麻紙、岩絵具	90×90



## 「京都 日本画新展2026」選考会を終えて

古来、日本絵画に描かれてきた自然の情景は、アニミズム的宗教観に支えられ、受け継がれてきました。自然界の全ての事物や現象には、霊が宿るとする原始的な宗教観が基となり、自然を敬愛する心が創作の源点となっていたのです。翻って、価値観が多様化する現代に於いて、創作の源となる自然への眼差しは、今も慈しみの心で支えられているのだろうか。そんな思いを胸に選考会に臨みましたが、今回出品された30作品は、そのような思いを瞬時に掻き消してくれるものでした。日本絵画に描かれてきた自然観は、現代の若い作家達にも確実に受け継がれている。そんな思いを抱くことができました。次代の日本画の在り方を考える時、日本絵画の特質でもある二次元表現の斬新さや、空間表現の簡潔さは新たな絵画を構築する上で、大きな手掛かりとなるはずです。また、自然との対話から生まれた感動を絵画化するためには、顔料を始めとする日本画材を的確に選択できる美意識を高めることも必要不可欠です。いずれも、二次元表現への回帰は、日本絵画独自の造形性や芸術性を極める大切な要素であると考えます。

選考会では、各委員からの選考理由をもとに、新しい日本画表現について、大変有意義な話し合いができました。その結果、今回も大賞1点、優秀賞2点、奨励賞(京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞)3点が合意のもと、決定されました。

(大野俊明／日本画家、成安造形大学名誉教授)

## 「京都 日本画新展2026」の審査を終えて

審査会場に少し早めに着いて作品を拝見しましたが、全体的にレベルの高い印象を受けました。今回は作品の賞を決めるのがとても難しく、この講評執筆では個人的に良かったと思う何点かの作品について述べることにします。優秀賞の堀花圭さんの《One day -waterfalls-》は滝のフォルムを簡略化し、落下する水と共に風景の気配を描いています。周囲の淡い緑は光と湿度を感じさせ、具象と抽象の混在した表現で捉えているところが魅力的です。奨励賞・京都市長賞の植田吏さんの《影見》は近づくとも金属の上に典具帖紙のような薄い和紙が貼られて、墨によるたらし込みを使ったモノクロームの日常風景に意外性があります。一見すると他と異質とは思えるこうした表現が、これからの日本画の新しい可能性を生むのかもしれませんが。倉谷優羽さんの《spot》は構造物に映る影という視点が面白く、片隅の雑草への素直な眼差しに好感が持てます。これからは影という不可解な要素、フォルムを追求なさると良いでしょう。西川礼華さんの《skavla / 悲しめるもののためにみどりかがやく》は画面に近づくとも植物の痕跡が丁寧に描かれ、遠ざかると茫洋とした大きな生命体を感じる、見ることに身体性を伴う絵画です。画面に作家の思想性が滲み出ると良いと思いました。最後に、中村勇太さんの《一笑図》は出品作品の中で技術的に大変優れている表現で大賞に相応しいと感じました。他にも心に残る作品がありますが、紙面の都合により取り上げることができないのは残念です。

(内田あぐり／日本画家、武蔵野美術大学名誉教授)

「京都 日本画新展2026」選考を終えて

「京都 日本画新展」の選考会では例年、出品作品について議論が交わす中で、日本画とは何かとの命題が間接的に問われるが、今回ほどそれを強く意識した選考会はなかった。長い歴史を持つ日本画の「古い」「新しい」とはなにか、そして今日の大衆（という言葉をあえて使う）は日本画をどう受け止めているのか。「新しい」と思った瞬間から、そのものは「古く」なり、「古い」と考えた瞬間から「新しい」ものは芽生える。表現するとはその自省と傲慢の最中に身を置き続けることであり、その眼差しを失った時こそ、すべては本当に古びてゆく。大賞《一笑図》はそんな新旧の概念に正面から対峙するとともに、われわれ評者の在り方を問う作品でもあった。新しき創作者たちの門出を心から寿ぐとともに、その活躍のもたらす刺激が更なる「新しい」ものを生み出すことを期待したい。

（澤田瞳子／小説家、同志社大学客員教授）

『アニミズム』

時代が急激に変わっていく中で、今回はステンレス製の画面が登場しました。審査会の議論の中で日本画の特質について、委員長はご専門の立場から材質・平面性・アニミズムと言及されたのでした。材質や平面性は理解するところですが、同列に万物に靈魂が宿るというアニミズムを挙げられたことに、驚きと同時に腑に落ちた気がしました。

美を基軸とした普遍性。時代が求めるもの、画壇が求めるもの、批評家が、画商が、好事家が、鑑賞者が、そして作家個人が追求するもの。その根底にアニミズムがある。伝統工芸に身を置く小生に通底する精神性を見たのでした。

大賞に選ばれた中村勇太氏の《一笑図》、奨励賞・京都府知事賞の吉原拓弥氏の《生々瑞芽》は一貫して私の心をとらえました。各賞いずれも納得の受賞作を得ましたが、田口涼一氏の緻密な表現や上岡奈苗氏の多角的な視点、小熊香奈子氏の確かな技量も心に残りました。

（下出祐太郎／詩絵師、京都産業大学名誉教授）

聴感を傾けて

この度は、来歴技法の作品に新しい基底材と思われる作品も並び、本展に挑む若い世代の意気込みが熱く伝わってきた。一作品一作品拝見させていただく中で、画は、技法と表現の必然関係に於いて作者の価値観や精神が不可視な表象となって現れる時、自立した生命を得ているように感じた。

今回、大賞に選ばれた中村勇太《一笑図》とステンレス基底材の奨励賞・京都市長賞、植田吏《影見》はイメージの具現手法が対象的で、日本画様式の領域的な変化と今後の可能性にひと際興味が深まった。

優秀賞の堀花圭《One day -waterfalls-》は瑞々しく透明感のある色彩とシンプルな構成が印象的で、自然の清々しい気韻に直に触れる思いがした。また、中田柚香《わたし》はスタンス表現が独創的で、カラフルな空間から独り言が聞こえてくるようで微笑ましい。一堂の作品との出会いを有り難く感じた。

（村上良子／紬織作家、重要無形文化財保持者）



発行日 2026年2月6日  
発 行 京都新聞  
制 作 ニューカラー写真印刷株式会社